

## 永年会員表彰と新春講演会

開催日時：平成25年1月26日10時～12時  
 場所：奈良市生涯学習センター  
 講師：長澤 忠彦 氏  
 (京都学園大学・産業技術短期大学非常勤講師)

演題：「地球環境問題について」  
 —いつまでも快適に住み続けられる地球  
 であるために—  
 参加者：会員41名 一般11名 計52名

### I) 永年会員表彰

講演会に先立ち永年（10年）会員の表彰式が行われた。

表彰該当者は5名（新子泰子、大石門三、小田久美子、宮澤喜代子、弓場京子の各氏）（50音順敬称略）で、小田、宮澤、弓場の3名の方が出席され、藤田会長より感謝状が授与された。

### II) 新春講演会

昭和30年代の大阪のсмоッグの写真と現在の中国の大気汚染の写真から講演は始まった。日本の公害問題の解決には、30年から50年の長い時間が掛かっているが、まだすべてが解決されたわけではない。



地球環境問題には様々な分野があるが、地球温暖化、熱帯雨林の減少、砂漠化、水問題が取り上げられた。

CO<sub>2</sub>などの温暖化ガスの影響で産業革命以降の平均気温は上昇し、水不足、異常気象、生態系の破壊、食糧生産の減少などがでている。温暖化をストップさせるためにCool BizやWarm Biz、ハイブリッド車・電気自動車の利用などが推奨されているが、CO<sub>2</sub>を増やさないバイオマス燃料はこれからもっと利用していくべきである。

大規模農地化、森林火災等による熱帯地域での自然林の減少が著しく、生態系を壊し、多数の生物の絶滅を引き起こしている。

人間にとっても生物多様性の恩恵は大きく、その重要性にもっと目を向けなければならない。日本においても絶滅危惧種は増えている。一方生態系を壊す外来生物には「入れない」「捨てない」「拡げない」対策が必要である。



さらに気候変動、降水量の減少などの自然的要因の他に人為的要因として「過放牧」「過伐採」「過開墾」そして「過灌漑」（不適切な水管理による塩分の集積）による地球の砂漠化がある。日本でも温暖化によるブナ林適性地の減少、渇水リスクの増大など砂漠化の心配がある。

また地球の水資源はほとんどが海水で、残りの淡水も氷河や地下水がほとんどで、飲料に適したものはわずか0.01%に過ぎない。

ヴァーチャルウォーター（仮想水）という観点から考えると、牛丼1杯を作るのに必要な水の量は牛肉で1,480ℓ、お米で828ℓの計2,308ℓもの大量の水を使っているとの説明には興味津津、水の大切さを知らされた場面も。



多くの図やグラフでパワーポイントを使ってわかりやすく解説していただいた。

講演会終了後、有志30名程が厳しい寒さのなか川井顧問の案内で中将姫ゆかりのお寺をめぐる奈良町を散策し、その後はお酒を楽しんだ方、この日行われた若草山の山焼きを楽しんだ方に分かれた。（高本実男 記）